

「ピクの定理」を研究発表

——第12回新潟県SSH生徒研究発表会 in Echigo-NAGAOKA——

- ◇期 日:令和6年7月29日(月)
- ◇会 場:シティホールプラザ アオーレ長岡 アリーナ
- ◇参加者:3年理数科学科 数学班生徒3名
- ◇引 率:本校数学科 島竹里枝先生

私たち「ピクの定理」の研究班は、本校の数学探究班の代表として、SSH 指定の長岡高校が新潟県内SSH指定4校(新潟南高校・新発田高校・柏崎高校・高田高校)の協力のもとに開催する研究発表会に、「ピクの定理で NASA を超える! ~円周率の近似~」のテーマで参加しました。

開会式後のステージ発表では、数多くの研究班から代表5班が発表し、午後にはポスターセッションによる生徒研究発表、そして最後に生徒交流会がありました。

ステージ発表では、新発田高校や長岡高校などの探究班の発表がありました。どの班の発表も研究内容を、初めて発表に触れる私たちにとっても分かりやすく明快に説明をすることを心掛けている様子を感じ取れる素晴らしい発表でした。中でもいくつかの班は内容発表から質疑応答までの15分の探究発表をすべて英語でこなしていたので、私たちの発表が近づくにつれ、発表が無事うまくいくのかと不安になりました。

お昼休みの後には、15分×6回のポスターセッションがあり、そのうち3回は発表、残りの3回は他の研究班の発表を視聴する時間でした。私達の発表では内容説明から質問まで円滑に進め、質問も日本語だったので滞りなく答えることができ、午前中に感じていた不安は杞憂に終わりました。他の発表を見て回るにあたっては、どの発表を選ぼうか迷うほど興味を惹かれる研究内容がたくさんあり、そして実際に見学した3本の発表のどれもが期待していた以上に面白いものでした。

最後の生徒交流会では、初めて出会う生徒で構成される8人グループが協力してクリアする課題が与えられました。年によって課題は様々ですが、今年は20cmほどの細いストロー最大100本で180cmを超える塔を作り、最も使ったストローが少ない班が優勝、というものでした。私たちの班は課題を達成することができませんでしたが、作る過程の中で素晴らしい仲間と協力して親睦を深めることができました。